

学校概要

創立 128 周年	学校長 倉岡 ナオミ	副校長 西山 久美子	学期 2 学期制	児童・生徒数 649 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 4			主な関係校: 瀬谷中学校	

学校教育目標

聴き合い切り開く学び 心通い合う人の輪 健やかに伸びる仲間  
 ○聴き合い学び合う中で、人とかかわりを生かしながら、主体的に問題を追究・実践できる子どもを育てます。(知・開)  
 ○正しい判断のもとで、お互いを思いやりながら生活し、心の通ったはたらきかけができる子どもを育てます。(徳・公)  
 ○健康を保持増進するために、工夫や努力を続け、自他の生命を大切にすることができる子どもを育てます。(体)

学校の特徴

□創立128年の伝統ある地域の中核校として、現児童の祖父母・保護者にも卒業生が多く、教育活動に対して協力的な環境にある。□明るく素直で、物事に前向きに努力する児童が多い。自己有用感も年々高くなってきている。  
 □家庭における自学学習の習慣に力を入れてきた成果もあり、家庭学習の時間は市の平均を大きく上回っている。  
 □研究に熱心で何事にも意欲的に取り組む教職員が多く、チーム力も高い。  
 ■学力状況調査の結果から年々学力は向上していることが伺われるが、数学的思考の観点では全学年で授業改善が必要である。  
 ■学力の個人差が大きくなっていることから、個に応じた指導を充実させる必要がある。

学校経営中期取組目標

○子ども・教職員・保護者・地域が、さらに「瀬谷小学校は、本当にいい学校だな」と真に自信と誇りをもって言える学校にします。  
 ・一人ひとりの子どもが認められ、自分の居場所があると実感できるようにします。  
 ・日々の授業の中で「できる」「わかる」「楽しい」を実感でき、子どもが自らが主人公として授業に参加し自尊感情を育てる、人権尊重の精神を基盤とする授業づくりを推進します。  
 ・話をしっかりと聴く習慣、掃除に一生懸命取り組む姿勢、給食の残食が少ない、友達と声をそろえて歌う等、当たり前なことが自然とできるようにします。  
 ○子どもの情緒の育ちを高め、感動と充実感が溢れる日々の活動を推進します。  
 ○子どもたちの情緒の育ちを高め、自分の居場所があると実感できる異学年交流を核とした教育活動を展開します。

小中一貫教育の取組

瀬谷中	ブロック	瀬谷中学校・瀬谷小学校・上瀬谷小学校・大門小学校
9年間で育てる子ども像	人とかかわりの中で、多様性を認め合い、自らを高められる子ども	
自校の具体的取組	○子ども・教職員・保護者・地域が、瀬谷小学校に誇りをもち、地域とともに歩む学校として進んでいくことができるようにします。 ・子ども自身が主人公として授業に参加し、「できる」「わかる」「楽しい」を実感し自尊感情を育む、人権尊重の精神を基盤とする授業づくりを推進します。 ・話をしっかりと聴く習慣、掃除に一生懸命取り組む姿勢、給食の残食が少ない、友達と声をそろえて歌う等、当たり前なことが自然とできるようにします。 ・保護者・地域と協働し、子どもが体験の中から人の生き方に学ぶことができるようにしていきます。 ○子どもの情緒の育ちを高め、感動と充実感が溢れる日々の活動を推進します。 ・一人ひとりの子どもが認められ、自分の居場所があると実感できる異学年交流を核とした教育活動を展開します。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	一人ひとりの子どもが、学び合いを通して互いの良さや可能性を感じ、「分かる」「できる」「深まる」「もっとやりたくなる」と感じられる授業の実現を目指す。	①自分の課題と相手意識を大切に学習活動の充実を図る為に、学習の課題を意識し異学年交流のシステムを利用し、「だれのために、何のために」学習するのかを意識できる授業をつくる。 ②言語活動の充実を図る為に、授業の中に言語活動(説明、報告、記録、対話、討論など)を必ず一つ以上位置づけ、自分の考えを表現、交流できる授業を行う。③自学ノートの推進
豊かな心	道徳の時間をはじめ、音楽や造形活動、特別活動等全ての教育活動において情緒の育ちを高め、自他を大切にするとともに豊かな心情を育てる。	①異学年交流における子どもの育ちを充実させるために、全ての教職員が「しかけ」を理解し、「見とり」と「振り返り」をする。②音楽朝会の充実を図り、全校に歌声が響き合うようにする。(日々の教室で歌う活動の定着、選曲の工夫等)③代表委員会を柱とした委員会活動の充実を徹底し、子どもたちが達成感や満足感を抱けるようにする。④朝読書の定着等読書活動を推進する。
健やかな体	「体育・健康プラン」を実践するとともに、楽しんで参加できる体力づくりの取組を進めていく。	①運動量を意識した体育の授業の改善をしていく。②児童運動委員会から提案される体力アップ企画(縄跳び月間等)を推進する。③外遊びの推奨と運動内容の充実を進めていく。(1校1実践運動)④栄養教諭や家庭科専科教諭と連携して食育に関する授業を進めていく。
児童指導	子ども自身が体験の中から学び、自己決定ができる力を育てる。子どもの背景や特性を理解し、一人一人を多面的にとらえるための組織体制をつくる。	①子どもを常に温かい人間関係の中に置く。②横浜プログラムを授業で積極的に活用し、子ども自身が体験によって社会的スキルを身につけ、自立することができるようにする。③子どもたちの抱える背景や特性を理解し子どもの困り感に対して他機関連携を含むチーム支援を構築する。④多面的な児童理解のために、教科担任制やY-Pアセスメントによる支援検討会を実施する。
特別支援教育	学級における特別支援教育の取り組みを充実させ、深い児童理解のもとにすべての子どもが自分らしく学び生活できるようにしていく。	①ユニバーサルデザインの授業や教室環境を組織的・計画的に実践し、瀬谷の学び部会、児童指導部会、人権教育担当と連携し推進する。②特別な支援が必要な子どもについての理解を深め、今後の成長に向けた見通しを持った指導において保護者と協働し、個別の支援計画や指導計画を作成していく。③個別支援学級児童の育ちを大切にしながら、交流学級での活動の意味と内容を充実させていく。
地域連携	これまで築いてきた地域との絆を基に、学校が取り組んでいる教育内容等についてより理解が進むようにしていく。	①学校説明会で経営方針を説明するとともに、HPを活性化して取組内容と子どもたちの姿を積極的に発信する。②ブラスバンドや合唱クラブの地域での演奏を地域活動に生かせるようにする。③瀬谷っ子サポーターや学援隊等の地域・保護者の力を活用し、子どもの学びを充実させる。④学校運営協議会に学校経営を説明し承認を得て、地域とともに歩む学校づくりを推進する。
いじめへの対応	①いじめを生まない学校風土、学級風土を創る視点で学校運営を見直す。②発生したいじめに迅速に対応し、全教職員が事例に学ぶ再発防止の姿勢を徹底する。	①いじめ防止校内委員会を定期的に開催し、未然防止の視点で教育活動を見直ししていく。②些細ないじめをも見逃さないために複数のアンケータを活用し、子どもの実感を大事にしながら、だれもが安心して生活できるようにする。③発生したいじめには、丁寧なコミュニケーションによって保護者との協働を作り出し、二度と被害にも加害にもさせないための組織的な取り組みを行う。
人材育成・組織運営	成長する教師集団として、対話による拓かれた関係性の中で互いの指導観や教育技術を磨き合い、人材育成と組織づくりを行っていく。	①日々の教育実践を通して、互いが刺激し合いながら自らの感性と授業力を磨いていく。②担当者一人が情報を抱え込まない組織的な体制づくりを徹底し、目的に対してより機能性を高める。③瀬谷の学び部会を中心として、対話による指導観のすり合わせを絶えず行い、全教職員が同じ目的をもって教育実践を行うことができるようにする。④業務アシスタントの導入により、効率化を図り働き方改革の推進を目指す。